

教育目標		豊かな心をもって、生き生きと遊ぶ子どもの育成					
重点目標		「愛」「自然」「主体性」のキーワードから保育の振り返りを行い、「やりぬく子ども」「やさしい子ども」「創り出す子ども」を育む教育を推進する					
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
学力向上	生きる力の基礎を育む	園内研究会を学期に2回程度実施し、研究協議を重ね、主体的な遊びが生まれる保育環境づくりを進める。 学期に1回程度、保育実践事例から、保育を振り返り、環境構成や教師の援助のあり方を見直し、教職員の保育実践力を向上させる。 幼児が主体的に楽しく活動できる行事のあり方を考える。	保護者アンケートにおいて、「幼稚園は、子供の発達や興味関心に応じた保育を行い、子供の意欲や主体性が育まれるように努めている」「子供は、入園前よりも『自らめあてをもち、いきいきと遊ぶ子』に育っていると感じる」「幼稚園は、子供に経験させたい遊びを工夫して取り入れている」と回答した割合が、それぞれ85%以上になる。 幼児の主体性を育む保育活動を推進する。 園内研究会や保育実践事例研究協議が計画的に行える。	A	講師招聘の園内研究会を学期に1回、他園研究会への参加、園内研究会として保育実践事例協議等も学期に複数回行い、保育の見直しに努めた。「幼児の主体性を育む活動としての行事」のあり方について検討し、幼児が自ら感じ考え行動することができる活動内容を意識し、実践に取り組んだ。 アンケート結果は、三設問ともに95%以上の肯定的な回答があり、幼児の主体性を育む保育の実践に努めていることが評価された。	今後も幼児の主体性を育む保育活動のあり方を探り実践に努める。また、今年度の行事の取り組み方や内容について再度振り返り、教育課程の見直しを図る。 園内研究会は、保育実践力を高めるよい機会となっている。今後も、園内研究会を全クラス共に学期に1~2回程度行い、保育の質の向上に努める。	幼児が主体的に生活できるように、空間的にも時間的にも十分に整えられている日常があり、教職員間でしっかりと保育環境や援助を研修されていることが窺えた。 保護者へのアンケートによる客観的評価において、其々高評価を得ているとともに、「劇遊び」においても、子どもたちの主体性、個性発揮を重要視された取り組みを評価する。 子どもたち自身で考え、納得し何かを成し遂げるのもとても良いことだと思ふ。それを実施するにはより多くの時間が必要になるため、行事を精選する必要があるのではないか。 「主体性」をキーワードに園と保護者がその大切さを共通理解し実践につなげることができている。 研究により、幼児の主体性が着実に育まれており、さらなる充実が期待できる。
	自然環境の活用	園庭の自然環境を見直し、遊びや生活に必要な多種類の植物を取り入れる。 園庭環境を幅広く活用し、子供の遊びがより豊かになり五感を使って遊ぶことができるようにする。 男性保護者を対象とした「このいけMen's会」を行い、保護者とともに子供たちが過ごす環境の工夫を進めていく。 草花、樹木、落ち葉等、身近な自然物を保育に取り入れていく。	保護者アンケートにおいて、「幼稚園は、誕生会や飼育栽培活動、身近な自然環境を取り入れた保育活動等、命にふれる機会を設け、命の大切さを感じさせている」「幼稚園は、施設や設備を有効に活用し、遊びを通して学ぶ場として、子供が活動しやすい環境を整えている」と回答した割合が、それぞれ85%以上になる。 学期に1回以上「このいけMen's会」を行い、全保護者に周知できるように様子を掲示物やホームページで知らせる。	A	幼児が遊びの中で自然に園庭の草花を含む栽培物に触れられるよう、遊びの環境に合わせて植物を植えるなど園庭の環境を整備した。アンケート結果は、両設問ともに95%以上の肯定的な回答があり、園庭や身近にある自然を遊びに取り入れ、幼児の興味関心を広げ、豊かな体験が行えたと評価された。 年間3回行った「このいけMen's会」において、保護者の協力を得て園庭に新たな遊具を設置することができ、子供たちの遊びへの意欲が高めることにつながった。	幼児が四季折々に豊かな自然体験が行えるよう、今後も園庭の自然環境の改善を継続し維持していく。 自然物を取り入れた様々な遊びが年間を通して展開されるよう、教師自身が自然に関する研修を積み重ねていく。 自然環境を活かした保育活動での幼児の育ち等について保護者啓発を行っていくとともに、協力を得られるよう進めていく。	既存の環境を生かしつつ、いかに保育に取り入れるかを保護者と共に考え、構成されていった。保護者と協同して保育環境を創られたことにも意義がある。 保護者へのアンケートによる客観的評価において、其々高評価を得ているとともに、参観ウィーク訪問時、「戸外遊び」において幼稚園施設、設備を活用した、園庭、樹木、そして落ち葉の自然にこ取り組み、子どもたちの想像醸成に寄与されていることに対し評価する。 アスレチックのような園庭には魅力を感じる。「このいけMen's会」が継続されることを願う。 男性保護者の力を借りて遊具を設置し、充実した保育活動につながっている。 体験活動を促進する環境整備の工夫がなされ、幼児の感性等、豊かな心醸成に大きく寄与している。
	一人一人を大切に育てる教育	個別な支援を必要とする幼児だけでなくすべての幼児の育ちや課題等についての情報交換を行い、職員間で支援や指導の方向性の共通理解を図る。 必要に応じて、巡回相談や専門機関等、外部機関との連携を図る。 学期に1度以上、関係保護者に個別指導計画の開示及び個人懇談を行う。	保護者アンケートにおいて、「幼稚園は、個々の発達や特性に応じた指導を行い、ひとりひとりを大切に育てる教育を行っている」「子供は、入園前よりも『人を大切に、よさや違いを認め合い育ち合う子』に育っている」と回答した割合が、それぞれ85%以上になる。	A	幼児一人一人の育ちや課題について職員間で情報共有し、指導の方向性を共通理解し様々な立場から幼児の育ちを支えた。また関係保護者と折に触れ情報を共有し合い、育ちをもとに支えた。 アンケート結果は、両設問ともに95%以上の肯定的な回答があり、一人一人を大切に、子供同士が互いに認め合える関係を育む保育が評価された。 個々の状況に応じて、巡回相談や教育相談を活用する等、外部機関や専門機関と連携を図り、発達や個々の特性、育ちの理解に努めた。	今後も個別な支援を必要とする幼児だけでなく、すべての幼児についても、タイムリーな情報共有に努め、組織的な支援体制を維持していくと共に関係機関とも連携を図っていく。 関係保護者との連携も密に行い、実態に即した援助を行っていく。 ユニバーサルデザインについて職員研修を行い、幼児一人一人に応じた支援方法の工夫に取り組んでいく。	アンケート結果の高評価からも、教職員が一人一人を大切に、幼児が互いのよさや違いを認め合える保育を推進してこられたことが分かった。 保護者へのアンケートによる客観的評価において、其々高評価を得ているとともに、とりわけ園児全体の最大公約数な取り組みではなく、一人一人を大切に最小公約数的な取り組み、すなわちユニバーサルデザインに意を注がれ、重要視されていることに対し評価できる。 まだ幼児なので、個別に支援が必要な子どもに限らず、それぞれ助けが必要であると思うが、教職員数が少なくて少ないと感じる。なんとかしてほしいと常に思っている。 関係機関としっかり連携ができていく。 個別のニーズや特性に応じた保育がなされている。インクルーシブな視点からの実践についても評価できる。さらなる取り組みに期待したい。
	思いやりの心の育成	動物の飼育栽培活動を年間通じて行ったり、誕生会等で生命や生きることについて考えたりする等、折にふれて、命の大切さや温かさに気付かせていく。 幼児が思いやりをもち、他者の気持ちや考えに気付くよう、協同的な遊びを計画的に保育活動に取り入れる。また、そのための教師の力量を高める。 教師自身の道徳性を常に磨き、人権意識を高める。	保護者アンケートにおいて、「幼稚園は、自分を大切にすることや、他人への思いやりについて教える」「子供は、入園前よりも『自分を大切に、友達や命あるものに思いやりをもったやさしい子』に育っている」と回答した割合が、それぞれ85%以上になる。 教師が年間1回以上、人権研修会に参加する。	A	協同的な遊びを中心に、幼児の他者を大切に育むことに努めた。また幼児が命にふれたり、生きることについて考えたりする機会を計画的に保育に取り入れ、実践した。 人権研修会に年間1回以上参加し、教師自身の意識改善に努めた。 アンケート結果は両設問共に95%以上の肯定的な回答が得られ、生命の尊重や互いを思いやる道徳性の芽生え、自己肯定感が培われていると評価された。	今後も幼児一人一人が、自分が大切な存在であることや、友達への気持ちや思いやりが育まれるような保育の実践に取り組む。 教師自身が生命尊重の精神と道徳観を磨き、幼児のモデルとなったり、日常で折にふれて指導したりしていく。 教師自身の道徳性を磨き、人権意識を高めるため、事例研修を取り入れていく。	命の営みが園内の随所に感じられる環境作りを心掛けられており、幼児が生活の中で命の神秘さや草を豊かに感じられるように配慮されていた。このまま継続して取り組んでほしい。 保護者へのアンケートによる客観的評価において、其々高評価を得ているとともに、幼児の他者を大切に育むことにもより、今社会から求められている自己肯定感醸成への取り組みに大いに努力されていることに対し評価する。 幼稚園での思いやりの心の育成が学校につながることを考える。 天王寺川中学校区における道徳教育の共有実践事項である「思いやり」についての推進が発達段階に応じて育まれていくことを期待する。
豊かな心・健やかな体	健やかな体作り	幼児が自分の体について関心をもつよう月1回保健指導を実施する。 年間8回、親子で取り組む「げんきカレンダー」を実施する。 保護者啓発として月1回「ほけんだより」を発行する。 伊丹市学校保健研究協議大会で自園の健康教育について発表する。	保護者アンケートにおいて、「『ほけんだより』や親子で取り組む『げんきカレンダー』は、健康な生活を意識する機会となっている」「子供は、入園前よりも『基本的な生活習慣や健康な生活について、意識をもち自ら取り組もうとする姿』が見られるようになったと感じる」と回答した割合が、それぞれ85%以上になる。 伊丹市学校保健研究協議大会の参加者から肯定的な意見を得る。	B	保健指導と「げんきカレンダー」の実施、「ほけんだより」の発行等は、それぞれ計画通りに行えた。 アンケート結果で85%以上の評価が得られ、基本的な生活習慣の確立に向けた保育実践が評価された。 伊丹市学校保健研究協議大会の参加者から園生活を通して自ら健康に生活しようとする力を育む活動や環境づくりについて肯定的評価を得ることができた。	幼児の生活習慣の確立には保護者意識が大きく左右する。今後も「ほけんだより」「げんきカレンダー」を通じて健康に関する情報等を周知するとともに親子で楽しく取り組む内容を工夫していく。 幼児に生活習慣の必要性を伝える場となる保健指導の内容や時期について再検討し実践を継続していく。	基本的な生活習慣の確立は、自己肯定感をもつ上でも重要であるので、通年において一人一人の状況を見極め、個々に合わせた細やかな援助をさらに期待したい。 保護者へのアンケートによる客観的評価において、其々高評価を得ているとともに、月1回の保健指導、年間8回の親子で取り組む「げんきカレンダー」によって幼児の基本的な生活習慣の確立に取り組まれていることに対し評価する。 「げんきカレンダー」は生活を見直す良いきっかけになっている。しかし、保護者の負担になるような目標は、楽しめるよう工夫が必要である。 「げんきカレンダー」や「ほけんだより」を通してうまく発信できている。親子で、家庭で取り組んでいる試みは素晴らしい。
	開かれ信頼される学校園	園情報の積極的な発信	保護者アンケートにおいて、「保育参観や学級懇談、参観ウィークなどは、お父さんの幼稚園での様子を知りたい機会となっている」「園だよりやクラスだより、ホームページや掲示板等は、幼稚園での行事や活動の様子、園の教育方針などを知るのに役立つ」と回答した割合が、それぞれ85%以上になる。 ホームページ、掲示板の更新を計画通り行う。 ドキュメンテーションの掲示を計画通り行う。	A	保育参観、参観ウィーク、クラスだより、園長だより、掲示板、それぞれ計画通りに行えた。またホームページも毎月2回以上更新することができ、積極的かつ継続的に園情報の発信が行えた。 ドキュメンテーションは写真と共に、幼児の育ちを言葉で添え、定期的に掲示することができ、保護者への教育活動の理解につながった。 アンケート結果は、両設問ともに95%以上の高い評価が得られると共に、アンケートの記述から、主体性を育む教育活動に対して高評価が得られた。	引き続き、様々な手法を活用してタイムリーな園情報を積極的に発信していく。ドキュメンテーションは、今後も幼児の育ちを捉え、教育活動の可視化に努めていく。 参観ウィークを今後も計画して教育活動を公開することで、幼稚園教育に対する理解を促進していく。 今後は、教育活動を未就園児にも積極的にPRしていきたい。	教育活動や子どもの育ちを、タイムリーにわかりやすい方法で伝えられていた。ホームページや便りなどの書面だけでなく、送迎時や懇談などの従来の face to face で伝え合える機会との両輪を、今後も大事にしてほしい。 園だよりは、見やすい見やすくなった。クラス便りは文字数が多いが、たくさん伝えたいことがあるのだからと思う。ホームページは訪問者の推移を提示できれば改善の結果がわかりやすいと思う。 保護者へのアンケートによる客観的評価において、其々高評価を得ているとともに、既にホームページが開設されており、リアルタイムの情報を提供することができる利便性の高いツールである物、その更新には時間とマンパワーが必要であり、幼稚園業務を熟しながら目標である月2回以上の更新を実現され、タイムリーに情報提供されていることは評価する。 ドキュメンテーションは、とても取り組みである。「主体性」を大切に教育の発信ができていく。 情報発信に多様なチャンネルで積極的に取り組まれており、保護者にとっては、保育方針の理解や我が子の状況を知ることができ、有意義である。
安心で安全な園作り	危機管理の徹底	計画に基づき、園児への安全指導（幼年消防クラブ活動、交通安全指導を含む）を行う。また年5回避難訓練及び通報訓練を実施し、反省点を踏まえてマニュアルを見直す。 月1回安全点検を実施し改善点（設備、害虫等）があれば速やかに改善する。 保護者アンケートにおいて、「幼稚園は、施設や設備を有効に活用し、遊びを通して学ぶ場として、子供が活動しやすい環境を整えている」と回答した割合が、85%以上になる。	折にふれて安全指導を行い、幼児の自ら安全に生活しようとする力を育むよう取り組んだ。 今年度新たに、洪水時の避難方法や避難場所を幼児に知らせた訓練を実施し、検証することができた。その他避難訓練、通報訓練も計画通りに行い、職員の危機管理に対する意識の向上に努めた。また、毎月の安全点検で改善が必要な箇所が発生した際には即対応し、安全な園作りを努めた。 アンケート結果は、95%以上の肯定的な回答があり、安心で安全な園として評価された。	B	安全指導計画、事件事故への対応マニュアル及び防災計画、洪水時の避難確保計画を職員全員が把握し安全意識を強化する。 定期的に実施を想定した各訓練を実施し、職員の連携と対応等の検証を行い、危機管理意識と対応能力の向上に努める。 月1回の安全点検をこれからも、今後も安全面をしっかりと細部まで確認していく。	今年度は大雨警報や台風などの多くの災害に見舞われたが、すぐに避難方法等を見直し、また迅速に訓練を実施されたことは、危機管理の意識の高さが感じられ評価されるものである。 安心・安全対策は、多くは予測できない状況から突如生じる危険に対し、いかに行動がとれるかに係っており、それを補正するには危機管理のための意識の向上、体験、訓練が重要であり、年5回の避難訓練及び通報訓練等、職員の安心安全への取り組みに対し評価する。 今年度は、警報の回数も多く、引き渡し訓練も身にしみたのではない。このまま継続されるのが良いと思う。 定期的な安全指導をこれからも続けていってほしい。 子どもの安全に対する方針がしっかりとおり、対策も十分である。事故等の未然防止に努め、危機管理体制のさらなる充実にも今後取り組んでいきたい。	

学校関係者評価総括

- 教育目標や重点目標に向かい、教職員が連携して幼児の実態に即した保育を創り出そうと日々研鑽されている姿が窺えた。また、園の教育活動をしっかりと啓発されておられ、保護者の理解も深く、共通理解の下で幼児教育がなされていることが感じられた。
- 重点目標の各項目における重点項目について、総じて肯定的評価をさせていただいたところであり、今後も改善工夫を凝らしての取り組みに期待する。なお、いつも申し上げることでありますが、幼稚園業務において、多忙極まりない様子が見取れる中、今後園内での各事業別評価を職員全員で意見交換され、新たな取り組み、不必要な事業の見直しなど、スクラップ・アンド・ビルドの方針が進められることが肝要かと思う。
- 保護者や関係機関としっかり連携できており、それが教育目標の具現化につながっている。

次年度に向けた重点的な改善点

- 今年度の教育要領の改訂に伴い、新しい保育のあり方を模索されてきた中で見えてきた成果や課題を、来年度も引き続き研修し実践していけることを期待する。
- 仕事は楽しく、遣り甲斐を持って取り組むことが、ひいてはその対象となる子どもたちへの効果が大きくなるものと思われまふ。今、「働き方改革」への取り組みや積極的に行おうと各分野において議論されておりますが、幼稚園においても例外ではなく、やはり際限なく広がる仕事を、大胆に抑えていくことも大事かと思ひます。なかなか数値では表せないものの、今やっている仕事量の何%をカットするのか、労基法でいう一日の労働時間8時間からの超過勤務時間月45時間以内とか、先生方には英断を持って取り組んでもらいたいものです。
- 働き方改革を意識しつつ、現在の取り組みを継続・発展させてほしい。